

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和4年	会計コード	10	一般	事業コード	24654
事業名	さっぽろアートステージ事業費					
評価担当課	所属名	市)文化部 文化振興課				
	課長名	浜部	担当者名	星	電話番号	011-211-2261
施策名	主	誰もが文化芸術に親しみ、創作や表現ができる環境が整い、多様な				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ● 全部委託 ● 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	①文化芸術活動を行う団体や個人に対して発表の場を提供するとともに、市民が身近に文化芸術に触れる機会を提供することで、文化芸術への関心を高める。②音楽文化都市交流宣言を行った浜松市との相互交流を通して、両市市民の音楽文化に関する相互理解の促進を図る。			
		長期	札幌市における文化芸術活動の担い手を育成し、文化芸術振興を図る。			
	取組内容	①アートステージ開催事業(札幌劇場祭開催費補助金含む) 11月を文化月間と位置づけ、美術、演劇、音楽などのイベントを1か月間集中的に開催する。 ②浜松市との音楽文化都市交流 浜松市と交流団の派遣・受入を行い、両市の交流を深める。				
実施結果	①さっぽろアートステージ2022:美術、音楽、舞台の様々なイベントを市内各所で実施した。 令和3年度に特別企画として導入した「ボーダレスアート」(障がい児／者らの作品展示)を美術部門コンテンツに引き上げ実施した。また、子供向けに4種のメディアアーツ関係のワークショップを実施した。 ②浜松市との音楽文化交流事業:3年ぶりとなる対面交流を実施。浜松市中学校合唱団と札幌市立伏見中学校が伏見中での合同練習及び交流会の上、「スクール音楽祭」にて合同合唱を披露した。合唱動画はアートステージのホームページにも掲載中。					
事業実施における工夫点	新型コロナウイルスの感染対策を講じつつ可能な限り実地で開催し、イベント内容に合わせてハイブリッド開催を行うなど柔軟に対応した。					
対象者	市民、観光客など			開始	平成17年度	終了 0 年度
関連法令・条例・要綱等	札幌市文化芸術基本条例 札幌市・浜松市 音楽文化都市交流宣言					
他都市の状況	市民参加型の文化フェスティバルから、国際的な芸術展まで、多くの都市で大規模な文化フェスティバルが開催されている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和3年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
事業費	27,844	29,000	28,999	26,000
うち特定財源	0	0	0	0
人工	0.2	0.2	0.2	0.5
人件費	1,440	1,440	1,440	0
計(事業費+人件費)	29,284	30,440	30,439	26,000
事業費	令和4年度決算	さっぽろアートステージ運営委託費:26,111千円(うち浜松交流事業費:836千円) 札幌劇場祭補助金:2,888千円		
の内訳	令和5年度予算	さっぽろアートステージ運営委託費:23,400千円(浜松交流事業費622千円を含む) 札幌劇場祭補助金:2,600千円		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	子どもの発表者数(累計)							
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定					
	-	-	1,483人	3,500人					
活動指標2	指標名								
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定					
成果指標1	指標名	さっぽろアートステージ参加者数(実数)							
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標					
	-	-	13,789	(20,000人)					
成果指標2	指標名								
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標					
項目	判定	理由							
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	①新型コロナウイルスの影響から一部をハイブリット展開する等柔軟な措置を講じつつ、美術、音楽、舞台など様々な分野のコンテンツ計10種を実施し、発表の機会が少ない特に若年層の市民に発表の場を提供するとともに、多くの市民が気軽に文化芸術に触れる機会を提供した。 ②3年ぶりに浜松市の合唱団と札幌市の受け入れ中学校合唱部による音楽交流を実施し、合同合唱を「さっぽろスクール音楽祭」にて披露・演奏動画をホームページで公開した。これにより、両市の音楽文化に対する相互理解を深められた。							
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	本市のイベント閑散期である11月を文化芸術月間として、地下歩行空間、札幌市民交流プラザ、Kitara、劇場施設等、市内の施設を広く使用し、会場規模を大きく実施している。 コロナによる学級閉鎖の影響もあり、子どもの発表者数は1,483人と令和3年度(1,898人)よりも少ない結果となった。一方、総来場者数は563,608人であり、継続的に高い水準を保っている(令和3年度は575,397人のため微減)。その他、総来場者数及び決算額より算出した1人あたりの経費は約51円であり、効率的な事業展開ができています。							
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	①各部門の専門家を委員に擁するアートステージ実行委員会が実施主体となることで、多彩な文化芸術事業を専門的な見地から効率的・効果的に展開できている。 ②さっぽろアートステージ内コンテンツを発表の場とする等、既存事業を活用し、学校関係者などの協力を得ながら限られた予算の中で効率的に行っている。							
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	子ども向けのワークショップ参加者へのアンケートでは、88.2%が満足したと回答している。 令和3年度は感染症対策から関係者限りの公開としたスクール音楽祭を、コロナ前同様一般公開したことにより、観覧者数が約58%増加した。また、地下歩行空間での音楽ライブ「サッポロミュージックショーケース」の観覧者数も昨年度から約20%増加しており、コロナ禍により落ち込んでいた鑑賞の機会を創出し、対象者のニーズに沿った展開ができたと言える。							
市民参加の実施	☐ 企画 ☒ 実施 ☐ 評価 ☐ 対象外 市民参加結果への対応 ☐ 回答 ☒ 反映								
今後の改善点	アートステージへの参加者数は文化・芸術に関心がある人数を反映しており、この数値の増加は文化芸術の裾野の拡大への寄与と読み替えることができる。参加者数水準をコロナ前の数値に戻すべく、多様化する発表者・観覧者のニーズに最大限に応えられるような展開としていきたい。								
前回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし								
今年度取り組んだ見直し内容	シーリングの実施に伴い、一部コンテンツの規模縮小や、広報物印刷数の見直し等により予算縮減に取り組んだ。		見直し効果額 (前年度)	3,000	千円				
今回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし								
評価の理由	1人あたりの経費は小さく、かつ満足度の高い多彩な文化芸術イベントを実施し、子どもを含む多くの市民に文化芸術に触れる機会や発表の機会を提供しているため。								
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	☒ 改善 ☐ 現状維持 ☐ 休止・廃止							
		①令和6年度にアートステージが20周年の節目を迎えることから、記念イベントを実施する他、既存の分野に加え、新たにダンス分野を立ち上げる。 ②音楽交流のため、浜松市へ本市より学生を派遣する。							
	予算	☒ 拡充 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ その他							
		20周年記念イベントの実施、ダンス分野の立ち上げ及び浜松市への学生派遣のため、予算規模を拡充して要求する。		見直し効果額	0	千円			